



各地で活躍している

雪印改良育成種

いね科・まめ科



アルサイククロパー 四倍体
 寒冷地、高冷地であるいは湿地、酸性地のような不良な気候土壌にも良く生育し、そのような地帯では赤クロパーより生育のよいのがアルサイククロパー。四倍体は普通種（二倍体）にくらべ莖葉が巨大型で、生草収量は三〇〜四〇%に収できます。



雪印改良チモシー

耐寒性強く、稍晩生で草丈長く、収量の多いものを選んで育成した品種で、乾草、サイレージいずれにも適します。寒冷地高冷地ではぜひ御愛用下さい。生草収量は在来より三〇〜四〇%の増収です。



雪印改良オーチャードクラス

暑さにも寒さにも強く、どこでも評判のよいオーチャード。雪印改良種は晩生で赤クロパーと刈取期が合致して都合が良く且つオーチャードの大敵雲形病に強く、生草収量は在来種より三〇〜四〇%多い優良品種です。



スイートクロパー グリーン スイート
 草丈二〜三以上に達し、牧草のなかで一番生育の旺盛なスイートクロパーは、葉にニガミがあったため敬遠されていましたが、グリーンスイートはニガミが殆ど無く（コマーソン含量二〇分の二）家畜の嗜好性は極めて良好。その根はルーサンの根のように長大で土壌改良効果が大きく、二年生作物ですから、二年目の夏以降には、たやすく耕起できます。



赤クロパー ハミドリ

いつも葉が緑色で病害（炭疽病・サビ病）に強く、栄養価も高く収量も五割以上多い品種で、冬枯れ（菌核病）にも強く、三〜四年は十分利用できる多収耐病性品種です。

各地で活躍している



雪印改良育成種

青刈類

青刈えんばく豊葉 (ホウヨウ)

その名の通り、非常に葉の多い品種。暖地での秋播品種として優れています。春まきの場合にも分蘗がすくなく、草質は柔かく、極晩生種なので、青刈りの長期利用にも適した多収品種です。(五〇センチ幅の止葉直前)



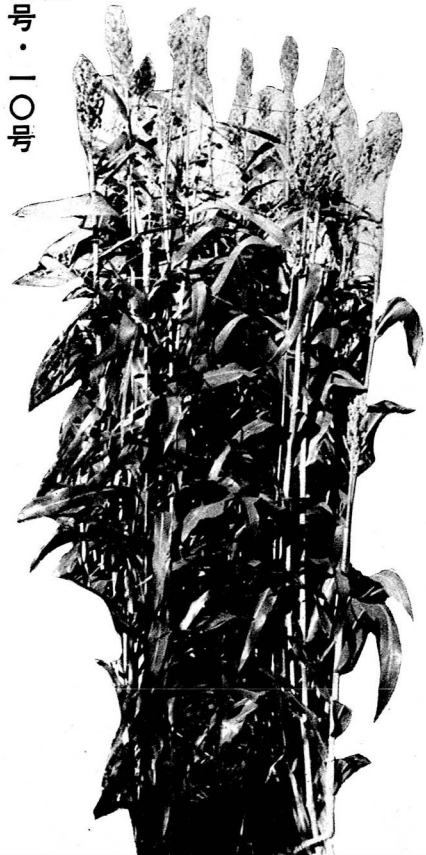
青刈えんばく太豊 (タイホウ)

青刈用として育成した新品種で、葉は大きく、茎も太く、分蘗も多い伸長型で、どこで作っても今までの品種より三〇〜四〇%は収量多く、青刈えんばくの横網格です。春まきでサンマーサイレージ用として最適。



雪印ハイブリッド ソルゴー

茎に甘味があり、暑さで弱った牛もモリモリ喜んで食うソルゴーは、暑熱と乾燥時によく生育する耐暑性の青刈作物。
雪印ハイブリッドは初期生育の早い早生種で、青刈収量多く、再生力も旺盛な一代雑種。



青刈大豆 雪印九号・一〇号

作りやすい青刈大豆は真夏の高蛋白高級飼料。雪印九号は葉が大きく、葉色濃く、間作等の耐陰性にも富んでいる多収品種。伸長型の満州茶林喰豆と茶小粒との交配種。
写真上の雪印一〇号は葉が大きく厚く、青刈用タイプで間混作にも適する夏型大豆の多収品種。子実(緑色)収量も多い。

雪印改良白花豌豆

短期間に多量の刈取りできるのが豌豆の特長。雪印改良白花は草丈長く、葉枯れの晚い青刈用多収品種で、青刈えんばくへの混播にも適しています。耐寒性は赤花とほぼ同様。

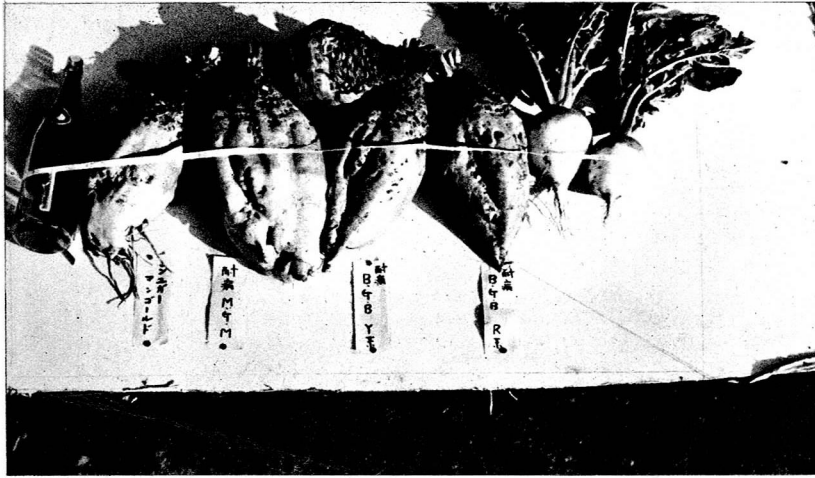




各地で活躍している

雪印改良育成種

根果葉菜類

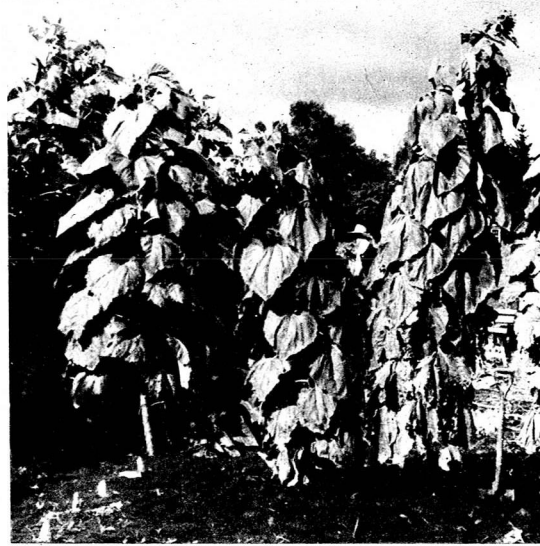


家畜ビートは葉の枯れる褐斑病が多いというのは二、三年前の話。MGM、BGMはともに耐病性甜菜（サトウビート）の血を入れた品種で、褐斑病に強く、葉の量は多く、従って多収で、甘味も強く、肉質は硬く貯蔵力があり、理想の優良品種です。写真の一升ビンやかぶと比較して下さい。その大きさがわかります。

家畜ビート

BGM (エム・ジー・エム)
BGM (ビー・ジー・ビー)

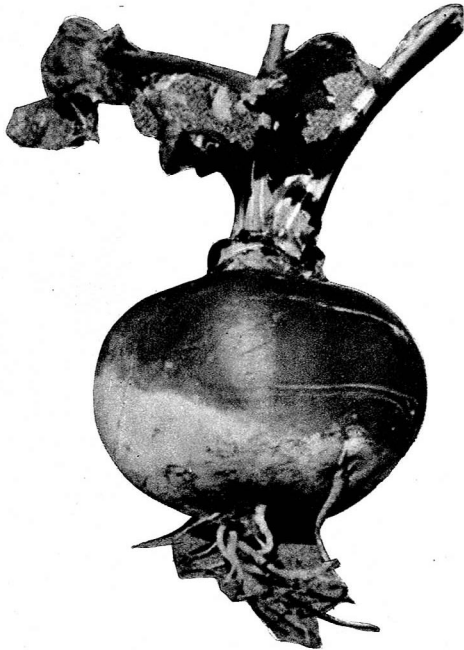
大葉多葉性ヒマワリ



雄大な葉を豊富につけ、葉重が全体の四〇%を占める伸長型の晩生多収種。
デントコーンよりも低温性作物なので、早春に播種し、初夏の青刈は極めて収量多く、葉部の多いものは栄養価も優れています。
また生育が早いのでデントコーンの欠株補播にも好適。写真右から大葉多葉性ひまわり、ラージラシアン、多葉性ひまわり。

雪印改良紫丸カブ

どんなに早く蒔いてもトウ立ちの心配がなく、寒さに強く、八〇〜九〇日の短期間に収穫できる早生種。厚肉で肉質は緻密であり、根部収量が多い。
寒冷地での春まきは牧草の一番と二番との端境期に、暖地では水田前作物として適しています。



青刈レープ

豊産C・O (ホーサン・シーオー)



レープ（青刈ナタネ）は秋まき早春刈取りが普通ですが、豊産C・Oは春まき夏収穫、または夏まき晩秋の収穫にも適し、作りやすく青刈収量の非常に多い品種。
四月白菜×サクセッション甘藍の種間雑種より育成された合成ナタネで、葉が大きく、葉部収量の多い晩生種です。